

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2017年(平成29年)5月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第94号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao, Khan Por Senchy
Khan Por Senchy, (Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】AAC21 [検索](#)

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて [検索](#)

【Facebook】<https://www.facebook.com/aac21.net> [検索](#)

これで水不足も解消!

水道が発達していないカンボジアの田舎では、池や川が水源になっている。雨水も瓶に貯めて大切に使う。

在日本カンボジア王国大使館(東京都港区赤坂)を通じ、村の池を修復して欲しいとの要請があり現地スタッフが現場を確認したところ、池には水が溜まってなく、再度掘り起こす必要が認められたため、早速工事を開始した。

工事は約1週間で終了、3月9日、その完成を祝う贈呈式が、池があるお寺の敷地内で行われた。式には、第35回「カンボジアふれあいの旅」に参加したメンバーが出席、地元からはウーチ・ボーリッ



贈呈式でテープカットする石川副理事長



修復が終わり、満水になった池



ト外務省副大臣を始めとする多数の要人が出席した。石川桂副理事長(愛知県安城市)と松原睦美さん(函館市)が、池の修復費用を工面してくれた。松原さんは毎年10年間に亘り、2基の井戸をカンボジアの小学校に提供しているが、今年は池の修復に力を貸してくれた。石川副理事長にも無理を承知でお願いし、資金協力を快諾してくれた。

水道の蛇口をひねると飲める水が出る、それが当たり前の日本だが、そんな国は世界にいくつもない。多くの国は水不足で、泥水をすすって生きているのが実情である。

BSフジの旅番組にソリヤ小学校が登場

3月25日、BSフジテレビの旅番組「R旅行社」に、本会が昨年3月に寄贈したソリヤ小学校(コンボンスプー県オラル郡・生徒数94人)が紹介された。

タレントの関口アナムさん(28)がソリヤ小学校の近くに10日間寝泊りし、子どもたちのためにサッカー場を作る過程を描いた旅番組。

番組内容を事前にご案内した会員さんから、とても感動したという意見が多数寄せられた。



サッカーに興じる子どもたち

カンボジアフェスティバル 2017

開催日時=5月3日(水)、4日(木)
各日10時~19時

入場料 無料

開催場所=代々木公園イベント広場
(東京都渋谷区神南2-1)

当会 出展

飲食店、物販、カンボジア語講座、伝統舞踊ファッションショーなど。本会のブースもあります。

広報活動(チラシ配布など)をお手伝いしてくださるボランティアさんを募集中!!

※詳細は事務局までお問合せ下さい。



昨年度の様子

カンボジア王国大使館より昼食会のご招待

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

2月17日(金)、在日本カンボジア王国大使館(東京都港区赤坂)のチア・キムタ大使が、本会の会員らを大使館に招き、昼食会を開いてくれた。29人が参加した。

カンボジア王国大使館と本会は、2000年に本会が創立してから10年が経ち、昨年亡くなった山本哲朗さん(元理事)が長いこと大使館に勤めておられた関係で、常に大使館と連携し、現地の活動を推進してきた。

初代大使のトゥロン・メアリー氏とは、今でもブノンペンで時々お会いし、会食する。

決してメジャーとはいえないNGO団体の会員を招いてくれるのは異例のことで、本会への信頼の厚さが伺える。身に余る光栄である。

当日は正午から1時半ころまで、大使館の地下にある大広間で開催、大使の心温まるスピーチのあと、おいしいカンボジア料理を頂き、

お土産まで頂戴した。カンボジア王国大使館と本会とは、ギブ&テイクの間柄でもある。

現地カンボジアへの支援の中で、特に校舎・井戸・遊具・トイレなどの施設の寄贈は、カンボジア王国大使館経由で行われることが多い。大使館の実績にもなっている。

本会としては、大使館のビザ発給所に会報などの資料を置くことで、広報活動に多大な協力を頂いている。



チア・キムタ大使を囲み参加者の皆さんと記念撮影

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば71年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の使途】: 年会費の40%が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の60%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、里子をケアして下さる各学校への謝礼金、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃・車の整備代など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。(年に一度、成績表も届きます)

【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいておりません。

カンボジアの小学校と村に 4つの井戸が完成

3月は、カンボジアの小学校と村に4基の井戸が完成、第35回「カンボジアふれあいの旅」の参加者らが出席し贈呈式が行われた。

すべての井戸にきれいな水が出て、子どもたちや村の住民は心から感謝していた。

これで通算の井戸設置数が298基になり、大台の300基達成まであと2基となった。



3月に完成した井戸の内訳

	ネームプレート名	学校・村名	生徒数	所在地(県名)
②	広瀬穂・美保	メーブリン小学校	637人	コンボンチャム県
②	平和・かそけしF・川崎3号基	タンクロサン小学校	732人	コンボンチャム県
①	日本棋院 普及功労賞 受賞記念 2017.2.1 寄贈:長崎県 武藤和 義・康代	スヴァイプレイ村	3,902人	コンボンチャム県
②	北海道札幌西陵 高等学校 ボランティア局	スルン小学校	396人	コンボンチャム県

※通算の井戸設置数(2003年〜)=298基(3月現在)

第35回「カンボジアふれあいの旅」

8日は移動日、9日から活動が開始された。

9日は、石川桂さん(副理事長、愛知県安城市)と松原睦美さん(函館市)が資金を提供してくれ、修復が完了した池、及び日本の篤志家が寄贈してくれた自転車(50台)の贈呈式に出席した。

10日は地方の小学校を訪問、井戸の贈呈式及び300人の生徒に学用品を配布した。

11日は支援する里子を訪問。2つの組に分かれ、教育里親さんが支援する里子の家庭を訪問、里子と交流しプレゼントを渡した。

12日は夢ホームを訪問、入園する15人の子どもたちと楽しく交流した。

13日はプノンペン市内観光(午

後は自由行動)、夕方には空港へ向かい、現地解散した。

旅の途中で、体調を崩した参加者が出たが帰国時には回復、全員元気で帰国することができた。



夢ホームの子どもたちと(3月12日)

上山陽子さんが 音楽と遊戯指導

上山陽子さん(奈良県大淀町、法人監事)が2月20日から3月11日までカンボジアに滞在、3月3日、4日、夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」と「タメイ幼稚園」で鍵盤ハーモニカによる音楽指導と遊戯指導を行った。

3月8日からは、帰国まで第35回「カンボジアふれあいの旅」に合流して活動した。



音楽指導する上山陽子さん

児童養護施設夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な環境にある子どもたちの生活と教育の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。現在10歳〜19歳の15人が暮らし、近隣の小・中・高校に通学しています。

■ ふれあいの旅の参加者が訪問

3月12日、第35回「カンボジアふれあいの旅」に参加した皆さんが訪問、子どもたちと楽しく交流した。

参加者の平古場正行さん(理事)が、女の子たちに衣料品を寄贈してくれた。同じく参加者の及川英博さん(理事)からも、各人に帽子が寄贈された。この他、日本から預かった沢山の寄贈品をさしあげた。

■ 社会福祉省の査察

3年に一度行われる、カンボジア政府・社会福祉省の査察が3月6日に行われた。特に大きな指摘はなかったが、子どもたちの保護のため、池に柵を設けるよう指示あり、早速取り付けを完了した。



石川副理事長がトロパントム石川小学校訪問

3月14日、石川桂副理事長(愛知県安城市)が「トロパントム石川小学校」を訪問、子どもたちや住民と懇談した。

石川副理事長が子どもたちに対し、文集作成の提案をしたところ、子どもたちの賛同があった。

今回は用紙を配ったので、次回訪問時(7月)までの原稿作成を依頼した。

また、前回(11月)訪問時に撮影した集合写真を住民たちに配布したところ、とても喜んでくれた。



住民や子どもたちと懇談する石川副理事長

パンクラッチ小学校にトイレ棟が完成

プレイベーン県パンクラッチ村にほぼ完成した小学校の校舎は、5月26日に贈呈式を予定しているが、校舎とともに建設したトイレ棟も完成、3月16日、関係者が集い贈呈式が行われた。

贈呈したのは、千田貞四郎さん(岩手県奥州市)と及川弘子さん(同、里親会員)。ご主人の及川英博さん(理事)が代わって式に出席した。

及川さんは「井戸とトイレは生活に欠かせないもの。大事に使ってください」と挨拶した。



完成したトイレ棟の前であいさつする及川英博理事

タメイ小学校と 平田小学校の絵画交流

3月15日、及川英博理事(岩手県奥州市)が「タメイ小学校」を訪問、「平田小学校」の生徒たちが描いた絵画30点を届けた。「タメイ小学校」からも絵画20点を預かり、及川理事が「平田小学校」に届けた。



日本からの絵画を手にする「タメイ小学校」の生徒

大久保けい子さんが ぬいぐるみをプレゼント

教育里親さんが支援する里子にプレゼントや手紙などを届けるため訪問すると、近所の子どもたちが自然に集まってくる。里子がプレゼントを受け取るのを羨ましがに覗き見るため、対策として飴やぬいぐるみを沢山持参し、差し上げている。

3月は、大久保けい子さん(東京都北区、会員)がぬいぐるみを寄贈してくれ、村の子どもたちに届けた。

何もない村の子どもたちはとても喜んでいました。



初めてのぬいぐるみ

國學院大學へ優志の 皆さんがカンボジア訪問

2月22日〜3月8日、國學院大學国際協力サークル「優志」の皆さん(5人)がカンボジアを訪問、本会が寄贈したエミ小学校、同中学校とソリヤ小学校を中心に、衛生に関する授業を行った。2月26日には夢ホームを訪問、子どもたちと交流した。



夢ホームの子どもたちと(2月26日)



手を合わせて感謝する村の子どもたち

クメール教育里親基金活動レポート

本会は、病気や事故、親の離婚などにより親または片親を失い、かつ貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学べるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約400人の子どもたちを教育支援している。

3月11日、第35回「カンボジアふれあいの旅」に参加した教育里親さんが支援する里子の家を訪問した。初めて里子に会った方、何度も訪問している方など様々だが、里子に会ってプレゼントを渡し、しばし交流の時を持った。

3月18日、20日は、日本で教育里



集まってきた近所の子どもたちにアメやぬいぐるみを差し上げた

親さんから預かったプレゼントを10人の子どもたちに届けた。その他の里子プレゼントは、現地スタッフが後日届けた。(根岸記)

教育里子へのプレゼントについてお願い

●里子へプレゼントを届ける方法は2つです

①現地(カンボジア)購入

本会の現地スタッフがカンボジアで購入し、教育里子に届けます。所定の郵便振込票を使ってお送りください。プレゼントの種類は、下記の通りです。

■ 自転車(大人用・中古品)	8,000円
■ お米(50kg)	5,000円
■ Tシャツ・サンダルセット (Tシャツ2枚&ぞうり1足)	2,000円
■ 本セット (絵本2冊/中学生以上は英語辞書1冊)	1,000円
■ お菓子セット(お菓子の詰め合わせ)	1,000円

②日本から持参

現物を練馬区の事務局に送っていただき、カンボジア訪問時に現地へ持参します。空港からの持ち出しに重量制限がありますので、A4サイズ封筒に入る程度にしてください。

※現物が多い場合、現地への持参を先に延ばしていただくこともありますので、予めご承知ください。

- 奇数月にカンボジアを訪問しますので、プレゼント(現物・現金ともに)は偶数月の末日までに届きますよう、お送りください。
- 詳細は、事務局までお問い合わせください。

投稿 将来は教師になりたい

【ロン・アノッチ】

私はロン・アノッチといいます。昨年11月にチュレイホープナウ高校を卒業、現在はプノンペン市内の大学で会計学を学んでいます。4年制の夜間大学です。

大学の寮に入り、昼間は時計を売る店でアルバイトしています。日本の里親さんには小学5年の頃から教育支援を受け、今も生活支援して頂いています。

ここまでこられたのも、日本の教育里親さんのおかげです。今は会計の勉強をしています。将来は教師になる夢を持っています。



しかし、教師になるための専門学校は昼間でアルバイトが難しく、授業料も高いので、しばらくお金を貯めてから挑戦します。

第15回定期総会を開催

3月26日(日)、練馬区立「練馬文化センター」会議室にて第15回定期総会を開催、12人の会員が集った。

集まった会員は少数だったが、委任状が会員総数の過半数を超えていて総会は無事成立することができた。例年の通り、昨年度の事業報告(決算)、今年度の事業計画(予算)、定款変更案等について審議、満場一致で承認可決した。

議事のあと、スクリーンで本会の活動状況を映し、理解を求めた。最後に、カンボジア人留学生、ヤエム・ヴィボルさん(男性)とプー・ソティアロットさん(女性)を囲み、現地での生活や日本での暮らしぶり



カンボジアの実情を説明するカンボジア人の留学生ヤエム・ヴィボルさん

投稿

カンボ爺ヤに告ぐ

今 紀子

1年半ぶりにカンボジアを訪れた。プノンペンの空港が立派になり、光り輝いていた。

何より感動したのは、車道の舗装である。デコボコ道が快適になり、土ぼこりも心なしなおとなしくなった。目ざましい発展ぶりだ。

しかし、我が「夢ホーム」も負けてはいない。何人かの卒業生は、アルバイトをしながら大学に通っている。すばらしい功績である。

ところが何と、久々にたずねた夢ホームのトイレの汚れ放題には絶句した。まるで掃除の形跡が見えない。外部の方が見学に来ることもあるだろう。まことに恥ずかしい限りである。

勉学は、子どもたちの権利である。

などについて話し合った。

(総会に提出した資料は、本会のホームページで見ることができます)

石川副理事長が2つの小学校で講演

石川桂副理事長(愛知県安城市)が地元2つの小学校で講演した。2月8日、安城市内の「東部小学校」で6年生(71人)を対象に講演、途上国支援について理解を求めた。

2月28日には、同市内の「梨の里小学校」で6年生(78人)を対象に講演、カンボジア支援の在り方について話した。



東部小学校で講演する石川副理事長

ウオッチ カンボジア

砂糖ヤシの木の樹液を煮込み

カンボジアの村にある砂糖ヤシの木から取れる樹液を煮込み、沸騰させて砂糖を作る現場を初めて見た。このように水分を沸騰させると、砂糖ができるそうだ。観光客向けに市場でも売っている。



二宮金次郎の像がうさぎになりカンボジアで復活

高齢者世代には懐かしい、二宮金次郎の像、最近小学校では見かけなくなったが、カンボジアの小学校でうさぎに変身して復活していた?!カンボジアの小学校校庭には動物をかたどった置き物が多く、干支の動物が代表的。



カシューナッツの実

カンボジアの名産物といえばカシューナッツ、お土産として好評だ。同じ豆類だが落花生は土の下、カシューナッツは、こんな形で木から垂れ下がっているのだそう。一つの実に一つの種、だから高価なのだ。



トクトクに子どもが30人

夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」では、授業が終わるとトクトクで帰宅する。何と30人もの子どもたちが1台のトクトクに乗っていた。子どもは軽いからOKとのこと。



一年中咲いているひまわり

日本では夏しか見られないが、常夏の国カンボジアは、ひまわりが一年中咲いている。朝顔も一年中咲いている。



カンボジア初の陸橋歩道橋

カンボジアでは横断歩道はほとんどないが、あってもないのと同じである。ところがコンポンスプー県の「夢ホーム」へ行く4号線で、建設中の陸橋歩道橋を見つけた。多分カンボジアで初である。

200メートルくらいの間隔を置いて、2つ建設中である。その間に大規模な小・中学校があり、地域や保護者の要望でできたのだろう。すべてコンクリー



トで作られているようだ。
(中野勝、兵庫県宝塚市・理事)

トウツサナー・カンボジア

※トウツサナーとは観察するという意味です

人里離れた辺境の村に校舎を希望している小学校があると聞き、3月20日に訪問してきた。

プノンペンから車で約3時間、あたり一帯がサトウキビ畑になっていて、外国から進出したと思われる大工場が近くにあった。

訪問先は、ロマンソー村(52世帯、人口約500人・コンポンスプー県オラル郡タサルコミュニティ)。

この村には校舎がなく、村の集会所のような木造の家を借りて、50人ほどの子どもたちが勉強していた。(教師は校長含め3人)

生徒は1年生・3年生・4年生・6年生は、この村から一番近い「エミ小学校」に通学しているというが、自転車で2時間もかかるため、通学している子どもたちは数



木造の家を借りて授業

人だけという。

この場所に校舎ができれば、4年生・6年生もここで勉強できると思う。

この村に3教室の校舎を建ててくれる方を募集している。不便な場所だけに残り残された感あり、ぜひこの場所に新校舎を贈りたいと願う。

校舎がほしい子どもたちの悲痛な叫び声を聞いてください

カンボジアに着いた3日の夕方に夢ホームを訪問、お米を寄贈してくれ、しばし子どもたちと交流した。

4日は、日帰りでアンコールワットを楽しんだ。

5日、ソリヤ小学校(コンポンスプー県オラル郡)とソムブル小学校(コンポンスプー県チュバモン郡)を訪問、遊具と学用品を寄贈した。



ソリヤ小学校で行われた遊具贈呈式(4月5日)

二本松ロータリークラブが2つの小学校に遊具を寄贈

4月3日・6日、二本松ロータリークラブ(福島県二本松市、法人会員)の皆さん(7人)がカンボジアを訪問した。

5日の夜、帰国の途について。

定期総会の返信はがきに記されたコメントの一部を紹介いたします

2回に渡り定期総会の返信はがきにご記入いただきましたご意見、ご感想を掲載させていただきます。次号では、運営等に関しますご質問を掲載させていただきます。

- ※会報を読ませて頂くだけの会員ですが、里親になっている皆様の訪問記事を読み尊敬しています。
- ※いつかはカンボジアへ行きたいと願っております。里子も成人し、もし結婚することなどあればお祝いしたいなと思います。
- ※一人でも多くの子どもが笑顔になることを願っております。
- ※里子の進路を聞いてみたいです。
- ※毎回の会報(アンコールワット)を楽しみにしております。
- ※昨年の4月と11月に2度アンコールワット及びプノンペンに行ってきました。大変な国であることに気づきました。これからも少しですが協力したいと思います。
- ※「よく学びよく遊びよく食べてよく眠る」子どもたちが安心して暮らせるようにと、いつも祈っています。施設や設備のメンテナンスも大切と考えています。

新しい仲間が増えました

2017年2月・2017年3月の2カ月間で、1名の教育里親会員様が新規に加入してくださいました。ご支援ありがとうございました。

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。

〔郵便振替口座〕
21世紀のカンボジアを支援する会
(口座番号)
00130000160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。

※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年3回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子どもたちが学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる教育里親会員を募集しています。サポート金額は年間3万円(分割可)です。

会員として

- ・個人会員(年額5千円)
- ・団体会員(年額1万円)
- ・教育里親会員

(年額里子1人につき3万円)

履戸徹彦さん(横浜市、理事・里親会員)は隔月にカンボジアを訪問し、夢ホームや近隣に住む子どもたちを対象に、アクセサリー作りの技術講習会を開いている。

第31回技術講習会を、3月28日・4月1日に実施した。

カンボジアによくあるフルーツ、ヤモリ、花など、小さなペンダントを作った。高価な物は売りにくいため、安価な物にシフトを変えていく予定。

今回の講習会は、6月27日・7月1日を予定している。



講習会の様子

《夢ホーム》第31回鑄造によるアクセサリー作り技術講習会

会員懇親会のご案内

5月3日(水・祝)、カンボジアフェスティバル(代々木公園イベント広場)終了後、午後6時から、近くのレストランにて、慰労を兼ね会員懇親会を開きます。参加ご希望の方は、事務局へご連絡ください。

- 会報「アンコールワット」5月1日付第94号発行
- 第3回カンボジアフェスティバル(5月3日・4日、代々木公園イベント広場)
- カンボジアミニツアー(5月25日・6月11日)
- 写真展&活動報告会(6月中旬、岩手県釜石市内)

5月・6月の予定

■ 第15回定期総会も無事終了し、いよいよ本格的に活動を開始いたします。特に今年はカンボジア支援と並行し、交流会も活発に行う予定です。

■ 第35回「カンボジアふれあいの旅」も終わり、第36回の旅の申し込みを受けつけております。皆様奮ってご参加ください。

事務局便り

成田空港⇄プノンペン空港間に直行便が就航しました

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・井戸の贈呈式、学用品配布など

第36回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもの交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。あわせて学用品配布や井戸の贈呈式に参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。

旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、会員以外の方は、事前に会員登録(年間5,000円)が必要になります。



夢ホームを訪問します



里子の家を訪問します

■ お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆NPO法人

21世紀のカンボジアを支援する会

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL: 03-3991-2854 / FAX: 03-3557-1213

【旅行期間】2017年7月6日(木)~7月12日(水)(5泊7日)

【募集定員】最少催行人員10名様(定員=20名)
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

【滞在ホテル】ミトホテル(プノンペン)5泊

【利用空港】成田空港、関西空港、その他

【旅行日程】6日=成田空港から全日空の直行便でプノンペンへ(他空港からの出発も可能です)

7日=小学校を訪問、井戸の贈呈式に出席、学用品の配布

8日=教育支援する里子の家を訪問

9日=夢ホームを訪問・交流、マーケットで買い物(サッカー大会あり)

10日=終日自由行動(オプションで活動あり)

11日=プノンペン市内観光、午後6時頃ホテルチェックアウト→プノンペン国際空港から帰国の途へ(空港にての現地解散になります)

12日=午前、成田空港(その他の空港)

【旅行代金】12万円から13万円 *現地までの航空券代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。
*1人部屋希望者追加料金5泊10,000円。*海外旅行保険は各自でおかけください。*カンボジア入国ビザを取得するため、現地空港で30ドルかかります。*アンコールワット日帰り観光ツアーはございません。(11月に実施いたします)

【締切日】2017年5月20日(土)